

PT'S EYES

～理学療法の専門性を考える会～

第4回 関町病院リハビリ科主催勉強会

日時	平成21年7月12日
会場	文京学院大学
講義名	胸郭の病態メカニズムと理学療法
講師	柿崎藤泰（文京学院大学 理学療法学科 准教授）
参加者	当院理学療法士12名 他院理学療法士24名

～要旨～

日常生活の中で呼吸は人間にとって必要不可欠な運動であり、身体において大きな影響を及ぼす。呼吸運動の狭小化が姿勢・動作のアンバランスを引き起こす。そのため、正しい呼吸を行い呼吸筋・胸郭拡張性・腹部筋の活動性を向上させることが必要になる。今回「呼吸器」を運動器として捉え理学療法を進めた。そのためには呼吸運動を維持できる身体環境を備える必要がある。

～講習内容～

1. 理想的な呼吸について
2. 横隔膜の機能について
3. 胸横筋が胸郭に及ぼすメカニズムについて ～スリングを用いて～
4. 胸郭、肋骨周囲の筋連結について ～体幹運動をふまえて～
5. 肋骨の機能について
6. 背部と胸郭後面の関係性について

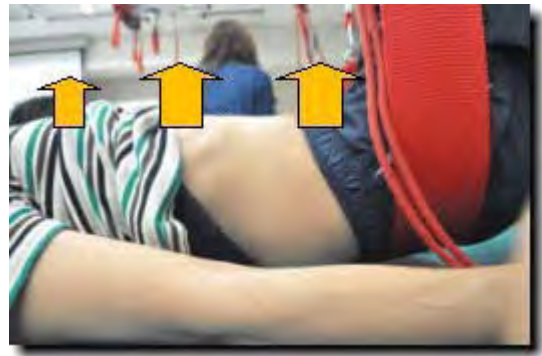
～実技例～

- ①殿部を挙上し、腹横筋の入りやすい環境を整える
- ②呼気にあわせて鳩尾を押す。（胸横筋の収縮）
- ③腹横筋の収縮を確認する。
- ④呼気にあわせて横隔膜肋骨部を持ち上げる

BEFORE



AFTER



→肋骨の活動幅（吸気時の肋骨幅が増加+上位の肋骨まで挙上、呼気時に上位・下位の肋骨も参加）
腹部の上下幅が1.5倍以上に向上！！

～講義風景～

